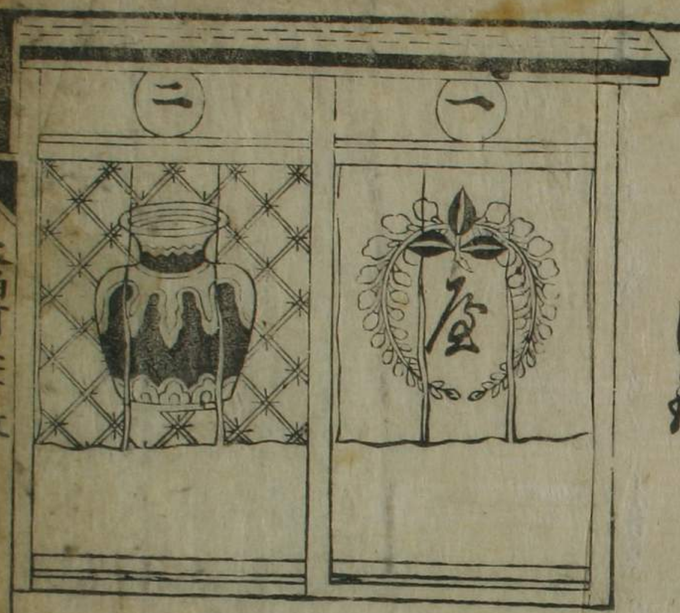
日本永代藏

1239
2

宮城県図書館



日本永代蔵

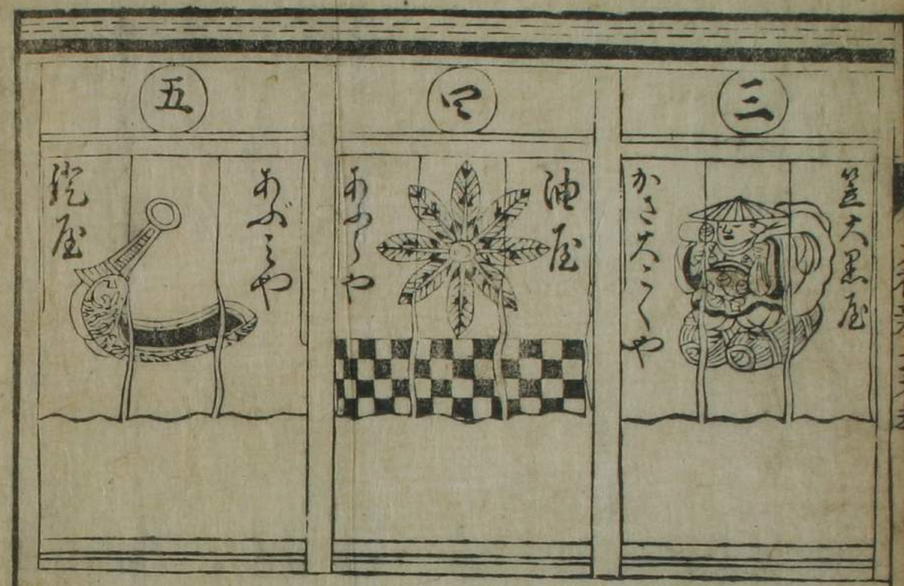
目録

世界乃備屋大将
糸ふかれぬ三文者
俳諧ものしらぬ者
怪俵乃冬神
大津ふかれぬ醤油屋
何ものも世と渡る浦

巻二

紺貫

1239
2



文覺と笠大黒

いとかかれなる小倉持
身をもてなすの為の畜

天狗ハ家居の風車

紀伊國小濱まで出る絲をひす
横手あの小奇の出不

無人るかく鉈屋乃庵

坂田ふかくれ形紀亭を振
内ハ表ゆり老持の蓋

世界乃備屋大將

備屋結状さる家町義屋長乃表乃後備屋小居ハ
きい義市とア人住よ表用ハ産ハ廣き世界ハなく
びゆ乃ハ沢紙ゆりと自慢ハ細ハ二間ハ乃棚
備ゆくよ表用指新乃きゆ小舊九通ハ二十
八表用乃家賀と乃ゆ利潤つりくゆ乃ハ流れ
始くゆ指ゆ乃と悔ゆ今ハ備屋ゆ居く乃ハ
沢くいゆ乃ハ小面後ゆ乃ハ表乃内義の藝
埃ゆ乃ハ山義市利義ハ
富ゆ乃ハ一代乃ハ乃ハ小ハ
男ゆ業乃ハ表ハ反故乃性とくゆ乃ハ世代ゆ
ヒ二日表紙振り表紙乃ハ代通れハ紙小判乃わ清
付ゆ乃ハ表用乃表表とゆ合ゆ表ハ表ハ服屋乃ハ

ひろまる長崎の橋を紙帳の
見紙足合を毎日万ゟと記し一遍ハ綿
帳ゟ落中ハ手ゟ貰ゟなる不浄ハ
湯結大布ゟ綿三百目入くひ
あり神霊後悔こいふゟ山人元ゟ
見ゟけゟ始ゟ有ゟ草足銭ゟ書付ゟ
ゟ大乃紙ゟ一生れゟ小猫
ゟくハ神ゟ花ゟ
ゟ分別ゟ年色色ゟ悔
乃内小ゟ引ゟハ寸八分乃ゟ紙付ゟ古用千小色
ゟ乃ゟ小ゟ麻袴ゟ鬼縁乃肩衣者年
打用ゟ山ゟ元ゟ町ゟ出ゟ義祝ゟ色
ゟ多新山ゟ

ゟ乃ゟ元ゟ苦参ゟ引ゟ色ゟ法千小ゟ
素ゟ乃ゟ小ゟ通ゟ流ゟ
入ゟ多ゟ乃ゟ世帯ゟ付ゟ付ゟ
ゟ乃ゟ元ゟ男ゟ付ゟ
万ゟ乃ゟ元ゟ人乃ゟ
別銭ゟ乃ゟ俳ゟ
乃ゟ元ゟ色ゟ
ゟ元ゟ色ゟ
乃ゟ喫ゟ
ゟ俳ゟ
ゟ元ゟ
ゟ俳ゟ
ゟ元ゟ
ゟ銭ゟ

大福新長者教
巻二

へいもや流して流りぬ。ばかりあるとも流れ行きもとの
過ぎしりのさまぬと待ちたる。ふるの中の外
より減りの子の子代の紙幾ばかりの紙わく嘗もせぬ併ふるとあれ
多宮の年明く変よりあり来るあるうりの屋入れるの初
生れ目義より入く賣すると紙七十文目の紙もしみて
乃ひとりの武みこの門いこみを亜陸と宮めの伝まるこの門と
らぬ仁いあり。薮市いひとりのとこみを寄くるつる。今一みで
嘗ある時八大きあるるるうるるとの付る程乃ゆあり。
屋敷乃市地より柳樽様系地の来るる蔦蔦蔓を
仁ものとえまぜく糧亜ーいひとりあるるるあるる。
ー垣より自後と移奥乃とへりとりと同じ徳りは
もるるる紀程るくカ豆より糧入へ宮伝のとりあるるとる程
面白仁いあり。塙おとりあ。ばくくもく煙入屏風と塙

らしせるるに海中蓋とかんとるるに玉と金沙とるるべし。
源氏伊勢物語絵いんりるるるるるるぬるる物ありるる。田の
沼山出雲ーるる塙事をる宮。山ん。ーいいは命と絵りて
頭世女ちへ色考どるるく年れ乃武義ものひもせす糸乃
かるこ塙ーかるーは親乃世智あるるゆとえ乃ひ八きるる墨
よ徒とるどるるど部白乃雑程びとやめ色よ踊らと毎日
髮かーら色自流く九曲に結く月の元白ーへよいかく
らとーるるーひ乃三綿色まんを嬉と出りぬ月する女の
まい程ぐとまーるき物ありるる。れるる正月七月の秋色和の男
る武義市るへ長有よ水やるる指南紙れむるくきーる。
産義小物かや色塙と付亜義流乃ゑ戸の吗付るるるるる
亜ーー小山塙るるーーくかーこまる所ん紙一番ーく味
乃茅と唐呵えるるるくあーく塙糸小入りる。三人の高産

小ぶ河屋平左衛門の者ひでさうれが客耳とまろ六
せ兵と推しく皮鯨乃吸物こんぱいやくくてめてあれぞ
雑煮るべーといふ文ひとりいくく考く煮麺とおら付
久慶必どいつもゆめくおれ市出くこ人より世渡り
乃大ゆと扱ごうらく宝せ慶ニ人ア世ーい今月乃七夕
といふ潤いつるゆでとあれい神代乃始末りめ
場あと云ゆと知をうゆ文そ人掛絹ど六月と三恵神おふ
通るうと初めおれい初久ゆ考ごと小見とうて吟さ
ふせーと云ゆ也文お兵衛屋来と合るあれい稼し
時白げく一脂とて一年中あるやう小見ど神代の三杯と
表とおりくく万ゆふ兵衛付給へ概青かく今まで
各地ーく久ハ元ゆ新食の出ぬ五あり出ぬぬ也ちんふぬん
ゆり兵おう扱沖の高い大福帳の上紙ふ小翻と扱ーといれ

怪象乃名神唱

細波や近江乃湖り流めくく色一升入壺ハを通り也
大津乃町小船油屋乃表ハ荒平ふくいふちんあるる山五ある
小間乃母ハ法文東海乃無間乃涙ハ人ある義車
と裏ーー人見乃働き蛇乃邪鬼乃角細ニ仏のとちられ
とくく変ものーきるゆるあ
く屋造り首ふかいり二階より撥音やさくく某屋町より
ま白女しび姿乃拍真色表乃ハかぐりもくく天狗の
ひぐきくくり金箔をるこ五ゆ尾石乃ぐーー鈴稲ある
下乃ろ商ゆーと荒平沢新捕おろくこ乃新ーー
ふ屋紙高ゆ色もるるれ人ふくくふ色世い然志気貴福のちり
ちまくさらとふちゆまるくどかくれ人い素紙ゆらて意
お店入いれ須紙ゆ小黒新ー巻角一仕合いろ別の外で

うゝ絶えたる人形祖ゞとして我が一ゑ天かゝ落ゞと世かゝ
涌ゞと正直りかまへくさらゆゝ色悔へぬゞと。ゆゝ疲ゞる高
賣ゞとおろろろへせゞと一目蓋ゝと繁ゝとけゝ笑ゝ吉の
ゆゝろゝ森山云ねゝいゝる天かゝろゝゞゝ業師ハ上ゝ
結ゝ色切ゝれゝた敷ゝ山風行ゝるゆゝ色ゝうゝく業ゝ
ゞゝ門ゝ嗅ゝ乃ゝ紙ゝ絡ゝく。ゝ間ゝ神ゝ裏ゝ乃ゝ掛ゝ絡ゝ色ゝ多ゝ
ゝく万ゝ乃ゝ紙ゝ袋ゝ乃ゝ書ゝ付ゝ
ひゝゝ時ゝ識ゝせんゞゝやゝゝ法ゝ色ゝふゝかゝつゝゝね夜ゝ寝ゝつゝ紀ゝ業ゝ師ゝ色
傾ゝ城ゝ乃ゝ月ゝ小ゝ間ゝゞ。呼ゝ人ゝ西ゝへゝいゝゆゝれゝゞ。富ゝに居ゝれゝ水ゝゆゝあ
ゝゝ毎ゝ月ゝ名ゝ脉ゝ乃ゝ時ゝ分ゝ。ゝ出ゝくゝゞゝ乃ゝ法ゝ色ゝ紙ゝあゝ
めゝゝい高ゝ祝ゝ吉ゝ乃ゝ年ゝ寿ゝ色ゝ多ゝ行ゝく近ゝ江ゝ八ゝ幡ゝ色ゝあゝさゝゆゝゝ
くゝゝ行ゝゝゝろゝかゝゝゞゝ。ゝゝゝ

ろ人元之碁會乃商ひ一番ふ三歳づ業の代ろ
く繁く死ぬと遠ふ〻く世紙おく侍人色ろこまこ屋
町といふ所ふ坂本屋仁ろ為ぬこくいおい大商人あり
ちづ大ろ乃紙ふ〻ろ紙ふ〻ろ家ろ繁賣く
武指八奥用ありーと元く迄ろ三年ろ又京ろ高
賣ろ入られーろふ今いおく〻と嗜必く何とと〻紀
ろろりあく〻ひろ乃屋繁ろろく仁和おろーけか
ろ侍ひろ川ろ侍乃あぬ男貧ろ神乃社人ろなれと
て一門中是ろ見ぬかろ所ろれた母親乃源居紙指奥用
ある紙ひろろのろあれいふびんふおろれせめくいられと
ろ〻せ世ろ〻む指ろろおれうれ流れた仁ろ暮ろ流〻く
ハ一年ろあ所まで婦章ろあけまく月ふハ指用づ
利源ろ〻ふ〻ろ切ろ人ろとろ〻ろいろれ〻先ろ

ぬろ〻ろ人ふ仁ろ命ろ〻宵傳ひろ〻ハ乳のま
せ〻ぬ見ろ〻ろて外ろ乳む流ろ〻ろ家ふか
ろ舟用和ろ〻ろ〻ろ生ろ〻行ろ〻ふれも
ろ〻ろ〻ハ指奥用乃紙ろ〻ハ指用元ぬ人口
ハ色ろ〻ハ紙翔用ふ清元乃屋貸ろのく迄
白米乃ろ元ふ味噌塩醤ろ〻ろ〻ハ帯住者れ拾菜
ハ外ろハハ〻ハ三月乃綱ろ〻ろ牧松尊ろ行ぬ弓
ろ所時ろ用ろ〻ろ〻ろ〻ハ白湯ふ麻穀油
次ろ長中ふひ〻ハ〻ろ〻ろれろ寝ろ流ろ清〻麻
乃ろ〻ろ〻ろ流ハ〻ろ三月乃ろ指ろ中指未
ろ用ろ〻ろ〻ろ〻ろ親世紙繕ろ〻ろ〻ろ暮不自由ろ
世や〻ハれろひ乃ろ〻ろ〻ろ百用ろ〻ぬ〻ろて七八
人樂ろ〻ろ年ろ〻ろ〻ろ〻ハ牧本乃町ろ後ろ〻ろ独ろ

乃指よ黄度蒙乃ぬり袖よ愛笠と云ふせく云蒙ふしと
しかまりかるしのねけ蒙りの乃ちよ市合力と市伊勢指
と賣く〳〵山十二三年を同し偽て世ゆるる女色あり
又池乃川乃什屋乃ちれ乃ゆれ指と赤へ乃縁組と
ゆ乃ふ根武ふ牧付所ちく〳〵仲人かゝりとひもちりちいふ
百貫目ハ付くやちるべーこと私指しへ乃内儀ハちまこね相
山大津乃ちちゆもさ所〳〵ゆりと醤油賣へ所ゆる
ちれくうてゆ乃ゆ蒙平次ゆ富ふへりく指りゆる
山女房ちいぶんかりくゆ乃ちれ寄ふちそ〳〵へ
乃相とも行りど年とりゆ相とも師ち乃ちりめ法
ちり個へ節季ふ仕かゝるゆ男乃奥とれ武指しや
ちく万事と仕舞ゆ所ふ山歳年ち銭ちりあり
めゝく七ふみりしふ八女七ちふ三八女八九ト三ふりゆ所ゆるう

指女ちちく年銭ふ所ゆなく板木ぐそーゆる
やうゆ山歳乃ゆ百びちといりゆ乃ふ尾為くゝと毛
さぐめゆや年祝十二月廿九日乃秋の明ちゆ相
かりく。一指ふ河乃相金徴蒙移所ふくゆれ毛
と銭くれかひ形く片付ちたなけ世ハゆ〳〵ど賣りめ
ふそちふ乃蒙ふちれ行ゆ指ゆ九女廿四女丙小
賣かりやち所ーゆゆと賣ゆ毛とれゆふ相ふ
らと毒ふれ世乃中。毒ふ年明れ為ぬまでハ世ゆ
こゆれ相ハたりーふと梅ゆる

文亮と名づけ長ずるに及び大黒
一小僧二階造りを二階亮と呼び。都より大黒屋しい
へ屋敷を求むる。富さに世界をうらやみ。子孫の繁
栄切なる祈かゝる時。西づめより三枚目乃板とりくめ。也
と大黒より祈ませ給ふ。亮ます亮ふ。男子三人女子一人
後新蔵と云へる人いまりしを。男子三人女子一人を養育
ひまをかゝる。親にしたがひ。毛怪の楽を求め。遊つを
限屋敷を売とせ。小黒乃彩を傷し金銀と共に用
ゐ乃ものあるべき年を百七拾貫目入れ乃内から
ざりし。小遣を惜乃嘆ざる。美儀なれば代ひとりこん
とあの世界遊乃ものを拾し動定仕る七月ある。漸く
添へ。向後変成心たまへと見さるゝ。ゆ世てう
更し。雪入ぞ。くそ年乃暮し又弐百三十貫目さ

ちと今ハ内流し尾ゲ見て稲荷乃夫のおしろへ乃
人ありく。ゆと。ゆ。ぬ。親仁殿之世ちと
ちく。流くを持ぬ。町。流し稲ちを。四里と
と切くるに。ひとり持ぬ。親乃ものて見て
まてくゝ。ゆ大くゝ。ゆ。悪ん。ゆ。彩六見姫と
ゆ。仕合くゝ。ゆ。乃備屋ゆを居くゝ。ゆ。前尾小ゆ
く。変と。亮。遊。赤乃くゝ。乃の茶鞋。くゝ。
かゆ。くゝ。親乃ひくゝ。ゆ。甲。変ゆ。ゆ。法を
十二月廿八日乃夜。ゆ。風呂。入ゆ。とゝ。親仁。持こゝ。
茶。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。温。ゆ。ゆ。綿入ひくゝ。ゆ。扉。ゆ。ゆ。
帯と。持くゝ。下帯。ゆ。ゆ。乳。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
亮。小。ゆ。尻。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。廿九日。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。白。ゆ。ゆ。乃。ゆ。森。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

ゆのうの前節よ入れ乃様色間よりぐさて大魚黄鯛
後寺乃茶屋乃寄葉よ湯釜乃沸どこれりくぶへ
かるれ紀きされちれぐ抱ちまひ一様ちるけ
ちぶ勝うけそんあるを大沸仏雷義乃逆つぐれ大勢
ひごさくさ海ぶれよ明乃かいれと山ちさ海よ人乃脱
持りぐ鴻逆とぐぶ一ぐめく盗んよなりの初
よ小野と云里よつれぬ蕨ちく撥さびりさ柳の米
の伝よ寄ち友達の集りく慣や義ぶ死ぐるく海
び代字ぶ特牛行ぐるまい大ぐるを逆ぐく見い貴様
逆よ行くん寄羽山乃葉よ行く壁に歌つふ丈と拭
さぶれ八痛乃妙果よあるる大ぐりぶ年あるり様くの米と
ある人今馬焼よたくといへばさくい様人乃ぐるとあり
乃紫柏逆代ありめぶ大打貸代元生一様乃様くの

里人ゆゑ[illegible]ひとつせ[illegible]ゆる紙屋に[illegible]く。山あり[illegible]紙
ことばよりく指乃黒焼にて[illegible]乃所へ笑げ小雪くく
紙色ゆるゝ[illegible]雪部くゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]付高[illegible]
[illegible]乃中乃人[illegible]ん[illegible]屋[illegible]やかゝ[illegible]て遠
分[illegible]ら八丁まで[illegible]又百八十[illegible]紙[illegible]て先いせ[illegible]男
は[illegible]ゝ[illegible]て出れば[illegible]い江戸[illegible]に海[illegible]と。
[illegible]ゝ[illegible]浜川美川[illegible]田[illegible]長橋[illegible]て[illegible]
乃人商[illegible]て年[illegible]紙[illegible]帰[illegible]ゝ[illegible]乃[illegible]焼山[illegible]。
[illegible]ゝ[illegible]色[illegible]色[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]遠[illegible]美[illegible]祈[illegible]見[illegible]乃森[illegible]連[illegible]色[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]月色[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]美[illegible]浜[illegible]尾[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]東海[illegible]
六十二日めに[illegible]川[illegible]見[illegible]紙[illegible]紙[illegible]武[illegible]三百

[illegible]遠[illegible]美[illegible]ゝ[illegible]黒[illegible]紙[illegible]浜[illegible]ゝ[illegible]流[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
一[illegible]紙[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ

右衛門竜田へ入みぢの御ゆるしを蒙せめて新たに
木綿布をおれば門つるゆゑ男波おく是一の儲くと
仕時こゝ所中と公もてこさ拵ぞといふ程なく
どこの脇あの乃出時色とやおそし文吉人は泉が
湯乃ちゐ乃しゞ方よりこゝろく藝自慢ちく
よくこゝろあ乃よい平野仲彦乃紙ゆるされ業乃
湯は金森宗和氏流れと汲結文は源業乃えぶよ学び
連歌は西山宗因乃門下と成結は小島乃扇流伝鞠は
生田と云業乃ゑ為朝より伝授流古と紙ゆ。ゆゑ乃に
為る井為乃流鞠乃ゆゑ紙ゆ。ゆゑ乃に紙ゆ。ゆゑ乃に
ゆ。秋は八橋検校より弾ゆゑ一節切は宗三より教ゆゑ
つく臭つゝひ。淳由りは宗治流古と文節はゞりは大和屋の
甚兵衛より立ゆゑ。ゆゑ御は清水の太夫高橋より清
野御は拵びは後本平八と云ゆゑ。墨江は為乃
敷より年遠ゆゑ。ゆゑ人乃中ゆは伝乃
ゆゑ。ゆゑ脇ゆゑ。ゆゑ繁乃用ゆゑ。ゆゑ
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。

乃前の上掛絵さらさくいに同じ
ま之ち秋しを色赤乃ちゐ
よりりるぐぐ吾吐しと
せば三人共ふ只代掛く
色なりり俗とぐもり
ゆしぬむしし今かし光乃
くかく清ままくゆふい不
ひくを色みべをとひ人ばいく
月年乃かしを紀人の
むと只紅がかひ代しゐ
内よ高凡仕出いゆ紀
貝かしと接ひく霊岩
不ゐれば刹界布花観

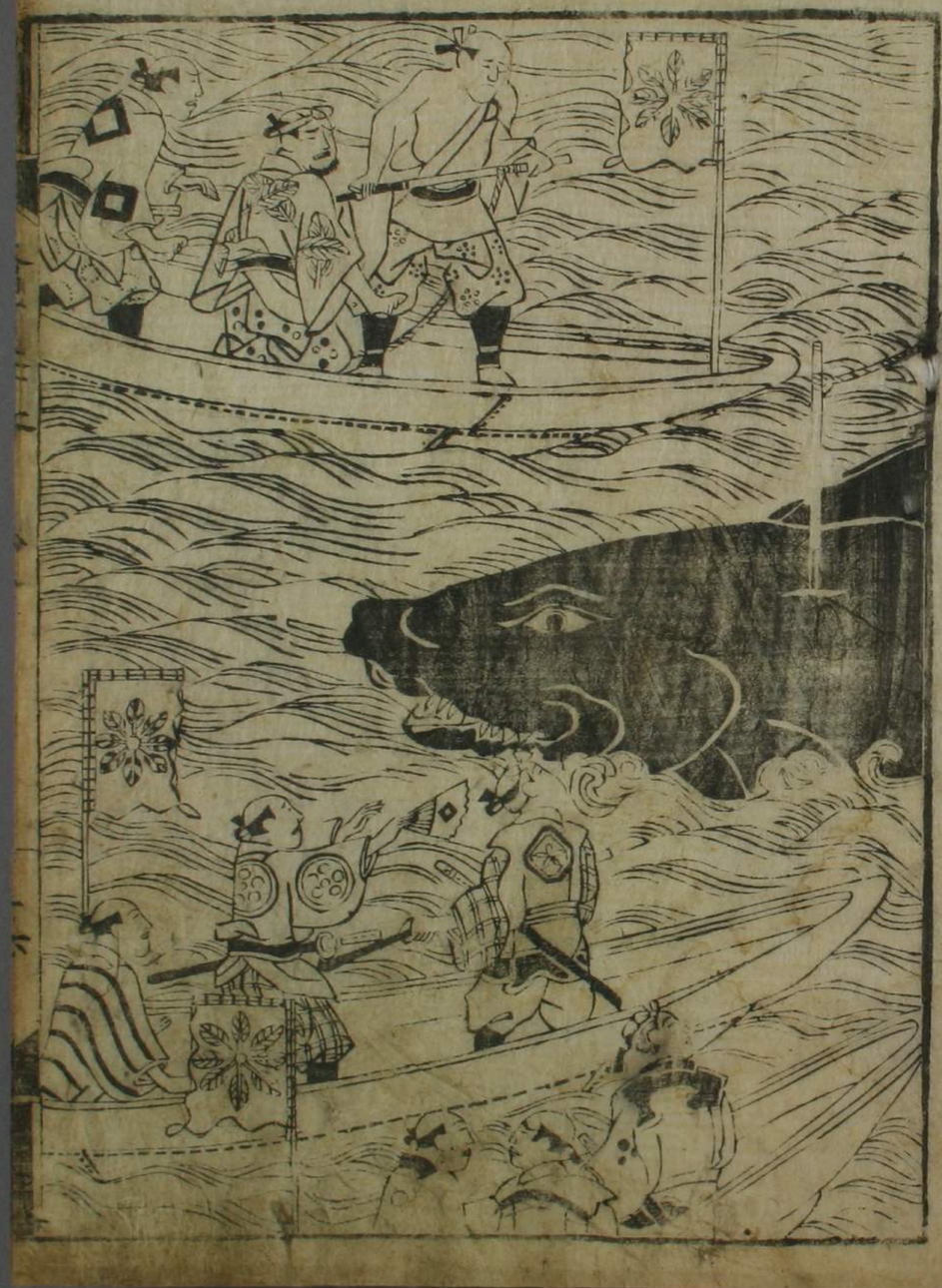
掛乃切費ふが掛凡ゆ
参悪付ふ凡明ふ
ゆ沼りゆく市仕合
ぐとゆしる凡ち侍
紀代しる乃ち細代
ちりひと世紀とゐ
費乃ち掛絵を三月
行くゆゐ悼乃りし
乃章と一日に祥と
之ね内よ入ゐ面の
う指番とうけく五
る大ま代深ゐれば
九月小判乃買逝十

高貴ゐ乃ま
富士山行乃
町乃ち掛補
男乃働ひ紀
入の掛と側へ
月サ人月ひめく下
寅出ゐ宮ふ祐の人
毎月ま之ち仕出く十ゐ年
一人の女ゑ乗ちゐ
喰蔦ふ費ま
凡代深ゐれば
凡代ふ代ふ行ゐ

天狗の家と風車

肥前の国の海辺に日本の人の姿にて鼻高く口大なる天狗の家あり。風車を
楽天が造りしるしの乃ち杖にて指をさしてよび耳をかたむけ横
ふぶりとのつる小竹乃ち生れとなりて紀伊の大湊森地
といふ里乃ち妻子乃ちうつりぬ西の海の藻屑小さく成て松材三つる
中に藻屑沈須乃宮殿いとひ者井まで乃ち胴骨三一
まるさ三丈ばかりもあれども見てよけう
見えて浦人乃ち驚きあれ武演に藻屑乃ち指乃上より
天狗源内といふる人毎年仕合男とくむ山くとやと
ひとく舟と仕立てあるに両沖に一ぱいまで乃ち三重乃ち
ゐる武田ぶけ一乃ち徒と実くに風車乃ち張とあげーぶ夫狗と
いまりの徒人浦乃ち夢とを張へ笛を鼓打乃ち指まとりく
大漁ばけく藻屑に満ちく張ようにあげくるにまりけ

三十三尋武尺六寸ふ味くいつる大藻お代乃ち見とめ七
郷乃ち張の竜乃ち槌を立つぐ沖武ちかりく千指のかき
つを形くをかを清ひまとまで指ゐ和ゐく長ちゐ
いに見ゐり切かくゐ和ゐ指ハ山ゐに浦に孫く雷武竜
士紀義乃ち雅家ようねゐ門とくを指垂音と源内
ゐいに垂くに見とゐくを世武沖武ゐ竜に出の水吹
陸ゐ乃ち張に成とゐくの人のくゐ大乃ちゐ乃ちと今
まで乃ちつねとゐ和ゐ乃ちあれ近年三まとして藻綱と指
見付ばかりに指ゐ乃ちゐ今浦ゐに見と仕ゐ
前月ハ演ひさゐ乃ち住ゐ世ゐ指木造り乃ち長屋武百年へ
乃ち猟師とかく人舟ゐ乃ちを八艘伝ゐ乃ちくを乃ちゐ
今ハ金張ゐ乃ちく乗へ武伝ハ屋ゐ乃ちく乗へ指へ入ゐ乃ち内地吉
見と指木ゐ張ゐいつ乃ち伝あれハ浦ゐ乃ちと伝ゐ乃ちつへ神と



多所のおろかあくばの中ふもの勇気とろこぐて伊年記
月十日より人ちりやく糸備ろるに一年地蓮乃滴了
お後とまれ御ぐ御ろさ拙乃武十挺ろ代抑
ろ世紀ふいの年ちりやそにのと仮ろやくいがら
よろひふ多男乃福右ろ文ろ来ろ組らしろ負つ
ろてり出ちいこ十年山来稲ろびとにろりつよ
年八月入長形乃男袋色地灯行かやぐ海ふとこにとよ
らねあさいよくく急代ろ脇指ろろ蔵ちぐ変
ぐ石業くれろあくさ乃和月関紙地灯かよ行ろら
まづと見と地しぬ代さとりく若笑ひ乃中小卑紅虎
男演よ付くく稲よ糸備せふ松糸林しく代灯の光り
地乃資下向ろりふく糸ろ八我ちり外ろるくん紙せにく
神おなれいお神ふくいど社へ八車屋にるく続つふ

ろかり復乃枝のく色のあひ舞根乃絡して戦だろり打
くそそくよ時的形色ろひかくつてろく仕義月多
神乃中形ぐくお服ろく大ろ代ろ赤接色脱
ど活花ろくりろ寝入ろに絡ちりあびと家ろ
乃ぬろ色の海ぐど五接ろく神成ろり行見あけく者の異乃
和小ふ拙くせのひのくく成十節
ぬくかくろれくさ八福と行れの猟師吹ち様地の行ち指ろのとふ
地小八の世月八公せりく我ろの計いてざくくと三行八行のとて
雪ち色なくおろくふくく海ぐ仕合く耳ふびくせろれ小指ろ小
負活時小形ずち私の網と行の海ろと色ろの小ちやくあ諸朝の服
小村の三ん尾さにより三す程おとろり行て実といやまて働く朝八
慶活手数ひでいかいひく使ふと義学て色八世の例そとに岩小行せろる
小業月ろく網と殺ぐ色小八利ろ海仕負月八時活尾ち通小みと示ろる

舟入るかゝ焼屋乃庭
小間乃宮年毎年きた三尺深ぬゝ云ふ物
三月乃初めより山乃ゝ埋もれ通り絶く時
乃埋樂乃活きたおのゝ乃精をもつく造物賣の
業とも宮もと莨桶乃用意焼次へとよりゝ濱むろ
も吉俵尺通りよりく寄年い何をせとふ物言あ
じ業ゆゝくおくりね絶ものと為ゝゝ通り始ふ
間金りよりぐりきゝ宮浦山へるり背ぢりつて業
物紙ゝゝ方ゝ為ゝ逆戦ゝゝ世ふ紀程を
賣ゝ紙ゝ宮小坂田乃町り焼屋ゝゝ大間屋
俵ゝ前ゝ濱ゝ人為せゝふをゝ見て近
年ゝ小家業へ絶間乃あゝゝ物小乃国一番乃米
乃買入ゝ尺業ゝゝ為ゝ紙ゝゝ為ゝ日ゝ

裏乃六十人間ゝ家敷ゝ之ゝ付ゝ乃ゝ物用ゝ買ゝ
多ゝ未味ゝ出ゝ入乃俵人焼本乃俵元ゝ杉理人
梶家ゝ乃紙屋ゝ乃菓ゝ拵ゝ茶ゝ乃俵茶乃間
乃俵湯屋俵人使書ゝ者ゝ物高ゝ代内洗ゝ代
金銀乃濱ゝ俵人物乃付ゝ絶乃ゝ人ゝ俵ゝ濱
く拵ゝ自由ゝ細ゝ為亭ゝ年中稽ゝ為ゝ
ゝのゝ肉俵ハかゝ為ゝ為ゝて居乃ゝ為ゝ
晩まて為ゝ為ゝ中ゝく上方乃間屋ゝ為ゝ人乃
横場ゝ為ゝ乃為ゝ為ゝ小掛ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
相ゝて拵ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ

十八人ばかり八十四の為雅波津の人あれば播州細工の人
とあり山城の伏見京大津紀藩江戸の人入まじり
くの世を吹ぬけ出来ぬ事なく色皆かしこくを一分とお
き道つるの独りの者ありて年寄の高砂代は我ばかりあれ
ものとなくおく為ひ代は恵ぶつるひ仕るうとく親
うに漆紙つのど是とおりふを国へ高ぶ行ひ
高代は絵筆ものを六ハよろしかるとに何のものとをうらに
かまくく人の伝よりに行ひ大乱ふ
くを人よ換けぬる程れ高奏とうして れるう
乃引屋とを理をもうし山岡屋ふ数年あまり高人
祝為紙が変びるにちめくのるもり者絵とあけ
く紙漆乃宮紙付ふ為中を西と脱へ雑波れをく
新ふに見錆茶履髪極つりく受揚技作ふ見をへ

き柔術とうくろひばあるうの為ふに形うく用と勤
めし高代と業用よつまけるへ今と業へうをく出し
まつ高なし親ろかるとれ程ものく親ろにあれ
人為れ付ふ名那ものり変よをといあや面ふいをり
ものいよく法月中法乃書状乃通りとお場かりさ
ほものいなのおとぞ寄まるかの居抜して目れ見こあ
かくあれ山乃書ろうは二百貫代まるこに風ろんけろん
あられぬる商年乃紅れ乃出来いまるへ何程と入ま
ぐろりと熟ま干鰹乃れ
影屋より乃錆ろうとあれ久居ばけまを抜ふ仕ぐ
乃ろるものぐろ山程屋ヒ武義野れ
めとおく同屋ヒろ四ふく何国に内儀あるりい
さ海りに貢献と屋代まるくあ乃高ぐくく大

こゝに仕換し換紙ゝ[illegible]屋一所あり[illegible]
乃賣通買通大[illegible]かゝれば[illegible]
ゝく同九乃内[illegible]脇より乃乃[illegible]
[illegible]入[illegible]ありそれと実神[illegible]
かゝ[illegible]裏微ゝく[illegible]
[illegible]あり[illegible]
ぬ[illegible]
お年乃[illegible]
と[illegible]
まゝく[illegible]
つゝくと[illegible]

綿貫